



別紙様式 2 (高)

<p>&lt;課題&gt;</p> <p>① すべての生徒にとって「分かる授業」の実現と「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を進める。教科会や教員相互の授業参観で教材や指導法の共有を図り、授業力の向上と働き方改革を目指す。</p> <p>② 生徒の発達や理解に合わせた支援体制を構築し、各年次と生徒支援部、スクールカウンセラーやキャンパスエイド等の連携を深め、教育相談の機能を生かし、豊かな人間関係づくりを支援する。</p> <p>③ キャリア・パスポートを活用した見通しがもてるキャリア教育を充実させ、生徒の進路意識の向上を図るとともに、多様な進路希望に対応できるよう、計画的かつ組織的な支援体制を構築する必要がある。</p> <p>④ 生徒が主体的に活動できる学校行事や生徒会活動等の工夫・改善をして、社会の一員としての意識や自己肯定感を高める支援を充実させる必要がある。</p> <p>⑤ 月平均 45 時間を超える超過勤務の解消に向けて、学校運営体制と業務内容や分担の改善を推進する。</p>			<p>達を支える働きかけを行う。</p> <p>イ 教職員とスクールカウンセラー・キャンパスエイド等の中で生徒情報を共有し、家庭と連携・協働することで、遅刻・早退・欠席を減らし、欠課時数の増加による転退学者数が減少することを目指す。</p>			
		4	多様性を認め、他者を尊重する態度を育成する	<p>ア お互いを思いやり、尊重する態度を育成し、豊かな人間関係づくりを支援する。</p> <p>イ すべての生徒に対して、いじめは、「人間として絶対に許されない」という意識を醸成し、いじめをしない態度や能力を身に付けるような働きかけを行う。</p>		
		5	キャリア教育の充実を図る	<p>ア 一人一人の生徒への面談、各年次段階に応じた進路ガイダンスや進路別見学会、ホームルーム等における進路情報の収集と提供により、進路意識の向上を図る。</p> <p>イ 進学や就職を見通した計画的で綿密な面談により、生徒や保護者の進路希望を把握し、生徒の主体的な進路選択や進路実現を図る。</p>		
		6	特別活動の活性化と部活動の充実を図る	<p>ア それぞれの生徒が自主的・実践的に活動できる環境づくりに努めるとともに、活動を通して豊かな人間関係づくりや自主性や自発性の伸長を支援する。</p> <p>イ ホームルーム活動を中心に、キャリア・パスポートを活用して学びを振り返るとともに、将来への見通しを持てるようにする。</p>		
		7	フレックススクールとしての特長を生かした教育活動の向上・推進を行う	<p>ア 生徒も教職員も成長でき、幸せになれる学校を目指すため、地域・関係機関と連携し、「荃崎プロジェクト 2026」を計画・実行する。</p> <p>イ 三部制・単位制の特長を生かした教育活動により、「学びの質」保証を行い、フレックススクールとしての取組を学校説明会・学校案内・ホームページで積極的かつ効果的に発信する。</p> <p>ウ 教職員自らが日頃の教育活動から学び、校内研修等の研修機会を有効に活用することにより、スキルアップを図り、生徒に還元する。</p>		
		8	職場環境を改善し、働き方改革を推進する	<p>ア 職員のウェルビーイング向上のため、各校務分掌の教職員配置や校務分掌内の業務分担を工夫することにより、業務の平準化に努める。</p> <p>イ ワークライフバランスを重視し、時差出勤や特別休暇、育児休業等の各種制度の積極的な活用を図る。</p> <p>ウ 業務の適正化や校務DX化、可視化を推進し、業務負担を軽減する。</p>		
		評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
		教科指導	国語	① 「分かる」授業を展開する。	<p>教材を精選し、ICT を積極的に取り入れ、生徒が主体的に取り組める分かりやすい授業づくりに努める。</p> <p>個に応じた指導を行うために、TTの授業を充実させて、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題が見られる生徒のサポートを行う。</p> <p>学習意欲を喚起するために、見通しと振り返りを重視する授業を行う。</p>	
② 基本的な国語力の向上を図る。	<p>小テストや定期考査、基礎学力診断テスト等の結果を活用し、常用漢字やことわざ等、言語能力を向上できるようにする。</p> <p>思考力・判断力・表現力を育むための基礎的な国語力を身に付けるため、学び直しの授業を取り入れ、基礎力の維持と向上を図るような補助教材とワークシートを工夫する。</p>					
① 基礎的・基本的な知識の向上を	<p>社会的事象に関する理解を図るために、生徒の実態に即して、基礎的・基本的な事項を繰り返</p>					
地歴・公						

別紙様式 2 (高)

教科指導	民	図る。	し学習する機会を積極的に設ける。 授業での振り返りや小テスト、定期考査等を活用し、知識を定着できるような取り組みを行う。			
		② 社会的事象に関する興味・関心を高める。	教材を工夫したり、ICT等を積極的に活用したりすることにより、生徒の社会的事象に関する興味・関心を高めることで、生徒の授業満足度を高める。			
		③ 表現力の向上を図る。	さまざまな方法で表現する機会を通して表現力を向上させられるよう、プレゼンテーションやエッセイ等の活動を積極的に取り入れ、言語活動の充実を図る。			
	数学	① 基礎的・基本的な学力の向上を図る。	定期考査や「高校生のための学びの基礎診断」等の結果を活用し、個々の能力に応じて小・中学校の復習から高校数学の応用問題まで幅広く取り扱うことで、基礎学力と成績の向上を図る。			
		② 「分かる授業」を展開し、学習意欲の向上を図る。	「分かる授業」と学習意欲の向上を図るため、授業担当で検討する機会を定期的に設ける。 数学検定や個別指導、課題等を活用することにより、数学への関心やさらなる意欲の向上に努める。			
	理科	① 思考力・判断力・表現力の向上を図る。	自然の事物・現象に関して思考を巡らせ、考えたことを表現できるように言語活動や振り返り等で表現力の向上を図る。 既習内容との関連を意識でき、系統的な知識が身につくような授業を展開する。			
		② 自然の事物・現象に対する興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る。	観察・実験、視聴覚教材やICT等を積極的に活用し、生徒の実態に応じた授業内容・授業方法を精選・工夫する。 身近な事物や現象を題材とし、日常生活と結びつく身近なトピックを授業に取り入れることにより、興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る。			
	保健 体育	体育	① 運動量の確保と生涯を通じてスポーツに取り組む態度を育む。	一人一人の健康状態、体力、特性等を把握し、クラスや個の実態に応じて運動種目やルールを設定することで、主体的に運動に取り組む環境づくりに務める。また、年6種目以上の種目に触れる中で、生徒が自ら動き、学ぶことの楽しさや達成感を覚えるよう授業を実施する。生徒満足度(KPI)「授業を通して、ルールを理解する」とともに、できなかった(分からなかった)ことができる(分かる)ように指導する。 安全に授業が実施できるよう、日常的に施設を点検し、猛暑等の悪天候時の授業案を工夫する。 ICTやITを効果的に活用した授業を目指す。		
			② 課題の解決に向けた学習活動を通して、運動の質の向上を図る。	自己の課題に応じた目標を設定し、解決に向けた学習過程の中で、改善点等を視覚的に分かりやすく提示するとともに、適切なアドバイスを行う。		
		保健	③ 適切な意思決定・行動選択ができる能力と保健の知識の向上を図る。	保健の知識を習得・活用し、的確に思考・判断・表現することで、正しい意思決定と行動ができるように、社会で起こっている具体的な事例をあげながら学習指導を行う。また、自ら必要な情報を手に入れる方法や手段を見つけられるようにするために、ICTを積極的に活用し、主体的に取り組む環境づくりを行う。		
④ 学ぶ姿勢と学習意欲の向上を図る。			前・後期2回の課題提出に向けて主体的に取り組めるよう、望ましい授業態度が身に付くよう指導するとともに、ICTを活用する機会を設定し、自ら調べたり、視覚的に分かりやすい情報を得られたりする環境づくりを行う。			
芸術	音楽	① 音楽を愛好する心情を育む。	音楽の表現及び鑑賞を通して感性を高め、実生活においても音楽文化に親しむ心情を育む。			
		② 創意工夫を生かした表現のための基礎技術の確実な定着を図る。	自己のイメージをもって表現を創意工夫できるよう、実習においては個々のレベルに応じて、丁寧かつ適切な支援と指導を心がける。			
		③ 思考力・判断力・表現力の向上を図る。	一人一人の資質や理解力に応じたきめ細かな指導を行う。生徒とのコミュニケーションを通して、生徒の思考や表現について理解し、その思考や表現が実現できるよう適切に支援するとと			

別紙様式 2 (高)

教科指導	美術		もに、生徒が主体的に取り組み、協働的な学びができるような活動を工夫する。			
		① 美術への興味・関心を高め、表現する喜びを味わう態度を育む。	美術が社会の中で担う役割や、作者の表現上の意図といった美術に関する知識を深める時間を設ける。また、自身の興味・関心について考え、さまざまな造形要素や素材に触れながら表現活動を楽しめるような授業づくりをする。			
		② 基礎的な知識と技能の習得を図る。	表現と鑑賞の活動を通して、基礎的知識を身に付けることができるよう支援する。知識や技術を視覚的に分かりやすく伝えるために、教員の実践や ICT を活用する機会をつくる。生徒の資質や理解力に応じたきめ細かな指導を行う。			
		③ 思考力・判断力・表現力の向上を図る。	一人一人の資質や理解力に応じたきめ細かな指導を行う。生徒とのコミュニケーションを通して、生徒の思考や表現について理解し、その思考や表現が実現できるよう適切に支援するとともに、生徒が主体的に取り組み、協働的な学びができるような活動を工夫する。			
		書道	① 創作意欲の向上を図る。	生徒が創作意欲をもてるように、小筆・大筆の特徴に合わせた書の表現を確認する。臨書から漢字仮名交じり文、実用の書へと発展させる。		
			② 表現意欲を高め、作品を完成させる喜びを味わわせる。	一人一人の主体性を尊重しながら用具・用材を選び、文化祭・学年末に向けて作品を完成させることで、喜びや達成感を味わえることを目指す。		
	③ 思考力・判断力・表現力の向上を図る。		一人一人の資質や理解力に応じたきめ細かな指導を行う。生徒とのコミュニケーションを通して、生徒の思考や表現について理解し、その思考や表現が実現できるよう適切に支援するとともに、生徒が主体的に取り組み、協働的な学びができるような活動を工夫する。			
	英語	① 基礎的・基本的な学力の向上を図る。	中学英語の既習事項と関連付けたり組み合わせたりしていく授業を展開することで、英語学習における基礎的・基本的な学力の向上を図る。			
		② 個に応じた授業を展開し、学習意欲の向上を図る。	TT や少人数授業を通して、生徒一人一人に応じたきめ細かな指導を行い、生徒の取り組みや反応を見極めつつ、達成感を得られる授業を展開する。			
		③ バランスの取れた 4 技能の向上を目指した授業を展開する。	自分自身で正しい発音やイントネーションを再生し内容を理解する能力の向上のため、教科書の英文音読練習を繰り返し行う。			
			「読むこと」「書くこと」が課題となっている生徒への支援を行い、苦手意識の克服を図る。 「聞くこと」「話すこと（発表、やり取り）」の能力の向上を図るため、ALT と連携のとれた TT 授業で生きた英語に直接触れる機会を多く設けるとともに、ICT 機器を用いた練習や言語活動を実施する。 教科書に出てくる文法や重要な表現を、ICT 等を活用し、具体的な言語使用場面と結びつけて指導をすることで、内容や全体的な流れを理解できるようにする。			
	家庭	① 主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。	主体的に学習に取り組めるように、始業・終業時の挨拶・服装指導を徹底し、学習用具の準備や実習の準備、後片付けを習慣付ける。			
② 基礎学力と技術の向上を図る。		日常生活が改善できる知識・技術と将来の生活に活かす意識の向上を図るため、興味・関心を引く教材を使用し、基本的な被服製作・調理実習を楽しみながら取り組めるようにする。				
情報	① コンピューターに関する知識・技能の向上を図る。	生徒の能力や理解度に応じて指導し、Word や Excel、PowerPoint、プログラミング等の基本を習得できるようにする。個々の能力差が大きいので、基本操作の時間に余裕をもたせて、個別対応の充実を目指す。				
	② 情報モラルの向上及び情報技術の効果的な利用方法に対する理解の向上を図る。	生徒にとって身近な情報機器である携帯電話やスマートフォン等を教材として取り上げ、情報が社会に及ぼす影響や課題についての理解を深めさせ、正しい情報モラルや情報技術及び情報機器の効果的な利用方法について身に付くよう授業を展開する。				

別紙様式 2 (高)

教科指導	総合	① 自分の良さに気づき、自己肯定感・自己有用感を高める。	ライフスキルの向上を目的とした探究活動や体験活動を通して、基本的なコミュニケーション能力を育てるとともに、生徒一人ひとりの状況に応じた支援を行う。あわせて、安心して過ごせる学習環境を整え、グループワークへの積極的な参加で達成感や有用感を感じさせることで、自分のよさや役割に気づき、前向きに学校生活を送ることができる生徒の割合を高める。			
		② 自分の考えを持ち、伝えるための思考力・判断力・表現力を育てる。	日本の伝統文化や地域の文化、外国の言語や文化に触れる活動を通して、身近な事柄への関心を高めるとともに、自分の考えを持ち、簡単な言葉で表現する力を育てる。また、多様な立場の人との関わりを通して、基本的な社会性を身に付ける。			
	商業	① 主体的に考える能力と態度を育てる。	経済に関する仕組みや概念について理解できるよう、知識の伝達だけではなく、調べ学習等を取り入れて、生徒の主体性を重視した学習になるよう心掛ける。あわせて、調べた内容の報告活動を通して、思考力・判断力・表現力の向上を図る。			
		② 社会人として必要な資質・能力を育成する。	学習に対する意識の向上を目指し、実践的・体験的な学習活動を行うことで、12月に実施されるビジネス・コミュニケーション検定で多くの生徒の合格を目指す。			
	家庭(専門)	① 主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。	主体的に学習に取り組めるように、始業・終業時の挨拶・服装指導を徹底し、学習用具の準備や実習の準備、後片付けを習慣付ける。			
		② 基礎学力と技術の向上を図る。	日常生活が改善できる知識・技術と将来の生活に活かす意識の向上を図るため、興味・関心を引く教材を使用し、基本的な被服製作・調理実習を楽しみながら取り組めるようにする。			
教務部	① 多様な生徒に対応し、基礎学力の定着を図る。	基礎学力の定着に向けた授業改善を図るために、教員相互の授業参観や研修の企画をする。				
	② 業務の適正化や可視化を図る。	校務分掌の人員配置や業務内容の見直しや平準化に努め、校務の効率化を図る。				
	③ 広報活動の充実を図る。	学校授業公開日や学校説明会、学校案内パンフレットやホームページを通して、本校の特長・魅力を発信する。				
	④ 欠課数超過による科目未履修の生徒の低減を図る。	各年次や家庭と連携し、段階指導を行うことで、欠課過多生徒の支援に努める。				
	⑤ 段階別指導(観点別評価)の見直し・整備を図る。	評価の方法や生徒の学習改善、教員の授業改善につながるような評価について、研修等を通して理解を深め、未修得者をなくす。				
進路指導部	① 事務処理等の効率化を図る。	生徒の実態を把握し、指導材料とするために、Google Formを用いて進路希望調査を行う。				
		Entryを利用し、求人票処理の効率化及び生徒の閲覧利便性を図る。				
	② 価値観を形成し、勤労観・職業観の確立を図る。	各年次と連携し、大学・専門学校等の担当者や周辺事業所・職業安定所・地域福祉課等と連絡を密にすることで、進路ガイダンス・進路講演会・進路見学会等を効果的に実施する。				
		さまざまな職種への情報提供及びその理解を生徒に促すとともに、社会人として相応しい資質を育むために、会社見学を1人2社以上行う。				
		入学から卒業までの一貫した指導計画を全年次に浸透させ、各業務の運営が円滑になされるようにするとともに、各年次との連携を密にするため、部会等を月1回程度開く。				
	③ 計画的・継続的な指導体制を構築する。	マークシート模試や進路行事の実施時期と内容を再検討し、さらに効果的になるよう工夫して計画する。				
本校を卒業した後も心のケアを行うとともに、各企業に対する教員の知見を深め、在校生への就職指導への一助とするために、進路先企業を訪問する。						
④ 個に応じた進学指導の充実を図る。	生徒の進路意識を深化させ、進路希望実現を図るために、進路ガイダンスや進路見学会において多様な講座・見学先を提供する。					
	普段から個々の生徒との面談・相談の充実を促進し、各種資料を容易に検索・閲覧ができるよ					

別紙様式 2 (高)

		<p>う整備することで、生徒が進路指導室に足を運ぶ機会を増やす。</p> <p>『進路の手引き』を発行し、情報提供するとともに、卒業年次対象の進路講演会を実施する。</p> <p>国公立大学の推薦入学者を増やすために、希望者に対して早期からの個別指導を充実させる。</p>			
	⑤ 個に応じた就労支援の充実を図る。	公共職業安定所や関係機関との連携を密にし、保護者・生徒の要望・実情に合った情報提供を行うとともに各機関との登録機会を作る。			
生徒支援部	① 生徒支援体制の一層の充実を図り、基本的生活習慣の確立に努める。	<p>登下校指導挨拶の体制及び声かけを充実させることで、挨拶によるコミュニケーション能力の向上に伴う、良好な人間関係の構築を図る。</p> <p>すべての休み時間を全教員で生徒を見守ることで、いじめの早期発見や安全・安心な環境づくりに取り組む。いじめを発見した場合、被害者の安心・安全を確保する措置を速やかに講じ、学校いじめ防止基本方針に基づき、適切に対処する。</p> <p>集団の一員としての自覚や社会人としての素養を育むため、服装頭髪指導やマナー指導の目的を職員間で共通理解し、組織的に取り組む。個々の事情に応じた指導も行う。校内巡視の必要性の共通理解を図り、巡視の方法や当番の再検討を行う。</p> <p>職員の共通理解を図るため、定期的な生徒支援部会の他、必要に応じて臨時の部会を実施する。</p>			
	② 生徒支援に関する教員間の共通理解を深める。	<p>職員の共通理解を図り、学校全体として同じ方向性をもった指導を行うため、生徒支援部会の情報並びに適宜必要な情報を、職員朝会・昼会を通して全職員に周知しながら、支援にあたる。</p> <p>生徒支援に関する知識・理解を深め、個々の職員の支援力向上を図るため、校内研修会を実施する。</p>			
特別活動部	① 生徒が主体的に取り組む生徒会活動を促進する。	生徒会活動の周知を図り、広く生徒の意見を取り入れた生徒会活動を促進するために、生徒会新聞の発行や昼休みの放送を実施する。			
	② 部活動・委員会活動・HR活動の活性化を図る。	生徒会主催で部活動、各種委員会、HR活動と連携した文化祭を計画・実施し、生徒が意欲的に参加できるようにする。			
	③ 生徒の成長に繋がるような行事を企画・運営する。	教科学習・教科外学習・校外活動の3つの視点で学びを振り返るとともに、将来への展望や見通しを持てるようにするために、各行事においてキャリア・パスポートを活用する。			
保健厚生部	① 安全・安心な学校生活と心身の健康の保持増進を図る。	<p>各種検診の重要性を啓発し、未受診率 4.0%未満（受診率 96%以上）を維持・定着させる。</p> <p>緊急時に迅速かつ適切な対応ができるよう救急体制を構築し、職員の救命スキル向上を図るとともに、職員救命講習研修会を実施することで、安心・安全な学校生活が送れるようにする。</p>			
	② 健康・安全の意識を高める保健教育を充実させる。	<p>命の大切さや性感染症の理解を深めために、性教育講演会を実施し、事後アンケートで知識の定着と意識変化を確認する</p> <p>保健室前の掲示板を毎月更新し、生徒の興味を引く視覚的な資料（図解やクイズ等）を取り入れることで、生徒の健康・安全の意識を高める</p>			
	③ 学校安全の確保、環境美化・整備に取り組む。	<p>安全点検を月 1 回確実に実施し、破損箇所・危険箇所について事務室と連携して迅速に対応し、学校安全の確保に努める。</p> <p>快適な学習環境や整備を維持するため、生徒が中心となって清掃に取り組む。美化委員を中心に、生徒が主体的に花壇整備や清掃活動に取り組めるよう、役割分担や評価を工夫する。</p>			
	④ 教育相談・個別支援の充実を図る。	<p>全職員の支援スキルの底上げを目指して、配慮が必要な生徒に対する支援の方法を学ぶ機会を増やす。特別支援教育巡回相談や校内研修会、事例検討会を年 1 回以上実施し、日常的に相談し、学び合える校内体制を作る。</p> <p>担任や年次職員がスクールカウンセラー、キャンパスエイド、スクールソーシャルワーカーと適切に連携できるよう、広く関係職員がケース会議に参加し、情報を共有できるように促し、</p>			

別紙様式 2 (高)

		<p>多角的な視点での生徒理解を徹底する。</p> <p>特別支援教育コーディネーターと協力し、生徒に関する情報や授業観察等から気になる生徒の状況を把握する。必要に応じて、生徒の生活上の困難が改善・克服されるよう通級指導を充実させるために1対1の授業場面だけでなく、小集団でのグループワークを実施し、他者とのやり取りや状況に応じた対応の機会を設定する。個別指導に加え、他者交流を目的とした小集団ワークを定期的実施し、社会性や自己管理能力を育む機会を創出する。</p>			
渉外部	① P T A活動の周知と参加率の向上を図る。	<p>合格者説明会、入学式等において、P T A活動への自主的な参加と協力を呼びかける。</p> <p>P T A行事や各種委員会運営の円滑化を図るために、本部役員との連絡調整を定期的に行う。</p>			
	② 会員の意見を取り入れ、P T A活動の活性化を図る。	<p>P T A活動のさらなる活性化を図るため、文化祭、研修会等での活動を通して会員間及び教員との親睦を深め、満足度を高める。</p> <p>広報委員会では、会員の負担軽減に努め、委員の意見をできる限り取り入れた広報誌を年1回発刊する。</p> <p>生徒指導委員会では、会員が都合をつけやすいよう少なくとも1ヶ月以上前に実施案内をすることで参加者増加を図る。</p>			
情報メディア部	① ICT 機器の環境整備を図る。	<p>教室での教育用情報機器の利用環境の整備、校内ネットワーク環境の整備を図る。</p> <p>日々のセキュリティ管理とトラブル対応、適切な保守点検とトラブルの未然防止に努め、日常業務が円滑に実施できるようにする。</p> <p>教育活動に必要な機器の導入・整備・更新を適切に行う。</p>			
	② ICT を活用した学習指導の充実を図る。	<p>教育活動に効果的なアプリの利用法や活用場面を開発し、職員の ICT 活用能力を高めることにより、生徒の授業満足度を高める。</p> <p>教育活動に必要な ICT に関する知識を職員で共有するために、授業における各教員の取り組みを集約し、校内研修を企画・実施する。</p>			
	③ オンライン授業の環境整備に努める。	<p>さまざまな場面に対応できるよう、オンライン授業の環境を整備する。</p> <p>必要に応じて技術サポートを行い、教職員がオンライン授業を円滑に実施できるようにする。</p>			
	④ 学校図書館の環境を整備し、利用促進に努める。	<p>学校図書館を整備し、生徒が安全・安心に学習できる環境を整えるとともに、利用者の利便性を高める。</p> <p>授業における図書館活用を促進するための工夫改善を図る。</p> <p>図書や読書に親しむ態度を育成するために、広報活動やイベントを行う。</p> <p>日頃から書籍・雑誌等の情報収集に努めて、適切に図書選定を行い、蔵書を充実させる。</p> <p>廃棄図書の選定基準を明確にし、蔵書の整理を行うとともに、日本十進分類法に基づく蔵書管理の徹底に努める。</p>			
一年次	① 規範意識を高め、基本的生活習慣の定着を図る。	<p>毎日の観察・声かけ、朝の登校指導、昼休みの教室巡回、定期的な年次集会や頭髮服装指導、生徒面談を実施して生徒の状況把握及び生徒理解に努め、問題の早期発見と対応を心掛ける。</p> <p>情報共有のために家庭との連携を密にし、服装・頭髮指導を通して規範意識を高める。</p>			
	② 基礎学力と学習意欲の向上を図る。	<p>各教室で ICT 端末を積極的・効果的に活用することで、生徒が学習に取り組みやすい環境をつくとともに、授業でもスムーズに活用できるようにすることで、学習意欲の向上につなげる。</p> <p>外部模試を2回実施して基礎学力の定着度合いを測定する。また、その結果をもとにキャリア・パスポートを作成していき、各自の進路に向けた学習の必要性を学ぶことで、学習習慣の定着を図る。</p> <p>毎週1回、年次で漢字テストを実施して、将来の就職試験や大学入学試験に生かすための基礎学力の定着を図る。</p>			

別紙様式2 (高)

	③ 進路への関心を高める。	日常生活や学校行事、総合的な探究の時間の活動の中で、生徒の自己理解を深め、進路への関心を高められるようにする。			
二年次	① 基本的な学校生活習慣を身につける	毎日の観察・声かけ、朝の登校指導、昼休みの教室巡回、定期的な年次集会や頭髪服装指導、生徒面談を実施して生徒の状況把握及び生徒理解に努め、問題の早期発見と対応を心掛ける。社会人として必要な容儀・態度を育てるため、月に1回服装頭髪を実施して規範意識を高める。			
	② 進路に対する意識付けを行う。	総合的な探究の時間における調べ学習やグループ活動を通して、自分自身の生き方・在り方や進路への意識を高められるようにする。			
		進路ガイダンスやバスによる見学、進路の日等の進路行事を通じて、キャリア・パスポートを作成し、生徒の個性に合った職業選択ができるよう支援する。			
	③ 他者と適切な距離感を保ちながら、人間関係を構築する。	LHRにおいて、就職用の一般常識に関する学習と小テストを継続的に実施する。			
		授業や学校行事等を通して、自他の個性を理解し、尊重できるように支援する。			
		年次集会を通じて、自己と他者との距離感の重要性、人との適切なコミュニケーションの取り方を指導する。			
三年次	① 基本的な生活習慣の定着と社会人となる自覚の向上を図る。	進路指導部と連携して外部講師の講演会を3回実施し、社会生活に向けた礼儀やビジネスマナーについての理解を深めることで、社会人としての自覚を深める。			
		問題の早期発見・対応のため、生徒面談や家庭との連携を密にし、状況把握や生徒理解に努める。			
		登下校指導や昼休みの巡回指導、月1回の服装頭髪指導を通して、規範意識を高める。			
	② 自主的・主体的に学習に取り組む態度を身に付け、進路実現に向け積極的に行動する力を養う。	総合的な探究の時間やホームルーム活動を活用し、それぞれの課題に対して自主的・主体的に解決できる場を設ける。			
		進路実現に向けてより良い選択ができるよう、生徒・保護者・教員が正確に情報を共有し、適切なサポートを行う。			
四年次	① 社会人となる意識を高め、基本的な生活習慣の確立を図る。	毎日の観察や面談、電話連絡等を通じて生徒や家庭との連携を密にし、社会人となる意識を高めることで、各生徒が健康的な生活リズムを整え、基本的な生活習慣を確立できるよう促す。			
	② 生徒の主体的な進路選択や進路実現を図る。	生徒の主体的な進路選択・進路実現を支援するため、担任・年次職員と各授業担当者で連携を図り、面談や進路ガイダンス、ロングホームルーム等を実施する。			

※ 評価規準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：やや不十分である D：不十分である